

【財務省政策評価懇談会における意見（全体に通じるもの）】

- 国税庁の実績評価は毎年丁寧に対応されており、結果も非常に好ましい状況なので、引き続きこういう形で続けていただきたい。
- 国税庁の評価は大変立派である。
- 国税庁に対する納税者の信頼感というのは、国際比較してみても大変立派なものだと思う。これから政治が大きく変化、変動をする中で、こういうベースがあることは大変ありがたい。日本の不安定さに危機感を持つ人に対して、国税庁と日本の納税者との関係が安定していることを発信すべき。
- 国税庁が上げている実績は、政治や行政が向き合うべき仕事に向き合っているということの証左だと思う。
- 国税庁は、納税者と直に接するところの行動や振る舞いの重要性を非常に大切な組織文化として守ってきたと思う。納税者との信頼関係を構築した中で適切な仕事をし続けることは、非常に素晴らしく、それが実績として表れていることを評価したい。
- 優秀な職員、信頼される職員の確保は、国家公務員全体で大きな問題になっている。この2、3年来、デジタル人材の採用を頑張っているのは高く評価するが、予定された採用人員を得られてないように思われる。例えば、デジタル人材については初任給に少し差を設けるなどしてはどうか。
- 全官庁に関係することだが、特に国税庁の場合は、経験を積んだ職員が地道に調査をするために、優秀な人材に長く働いていただくことが必要。給与体系も含め、いかに良い人材に官に来ていただけるかがとても重要だと思う。